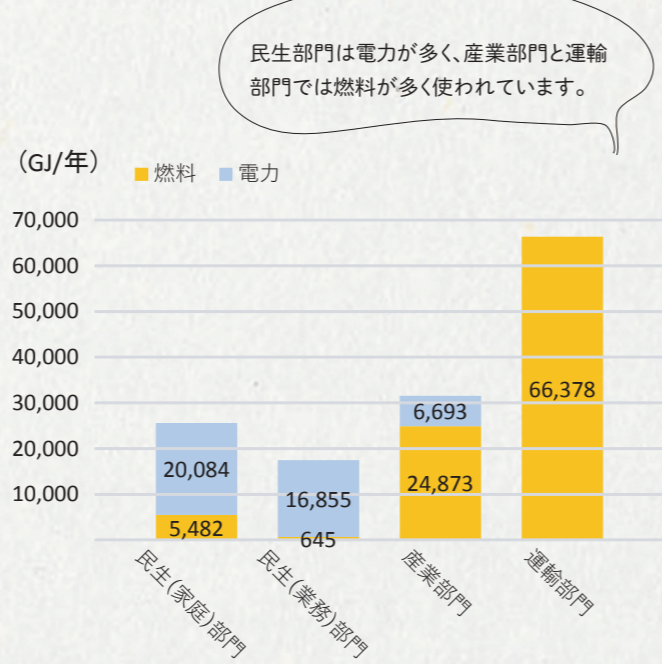
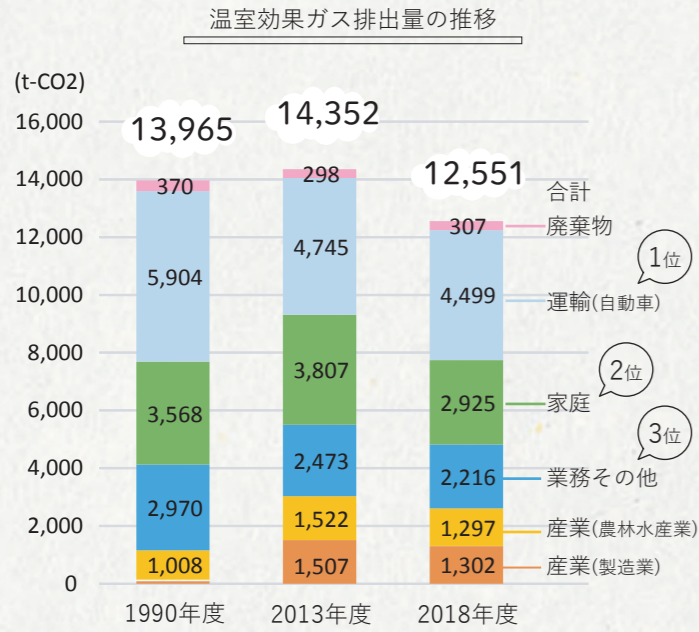


村のCO2排出量の現状とエネルギー消費の特徴



檜原村地域再生可能エネルギー導入計画

概要版

令和4年1月



檜原村は、自然の宝庫、東京都の奥座敷といわれており、豊かな自然は多くの動植物を育み、奥秋川の清流と奥深い山々は、格好の繁殖地として多くの鳥獣や植物が東京の中で見ることができる数少ない貴重な場所です。先人が守ってきたこの豊かな自然環境は村のかけがえない財産であり、その維持と活用は村の貴重な課題となっています。

一方で、国内外においては地球温暖化防止が重要な課題となっており、本村においても脱炭素社会に向けた

目標とそれに向けた施策の検討が必要となっています。

そこで、本村特有の資源を有効に活用しながらCO2排出削減を図り、同時に、定住人口・交流人口の増加、健康で安心して暮らせる地域づくり、地域産業の育成及び観光資源の情報発信と広域連携といった村の課題の解決にもつながる2050年に向けたCO2排出削減目標及びその実現方策について検討し、檜原村地域再生可能エネルギー導入計画を策定することを目的として本計画を策定しました。

これまでに村内で導入されている再生可能エネルギー

本村ではこれまでも再生可能エネルギーの導入を推進してきました。現在村内で導入されている主な再エネをご紹介します。



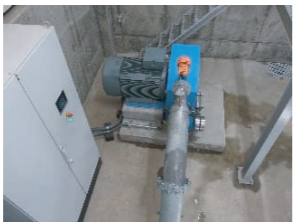
薪ボイラー
数馬の湯の風呂加温や給湯に



チップボイラー
やすらぎの里の風呂加温や暖房に



太陽光発電
役場では蓄電池も備え災害時にも利用できます

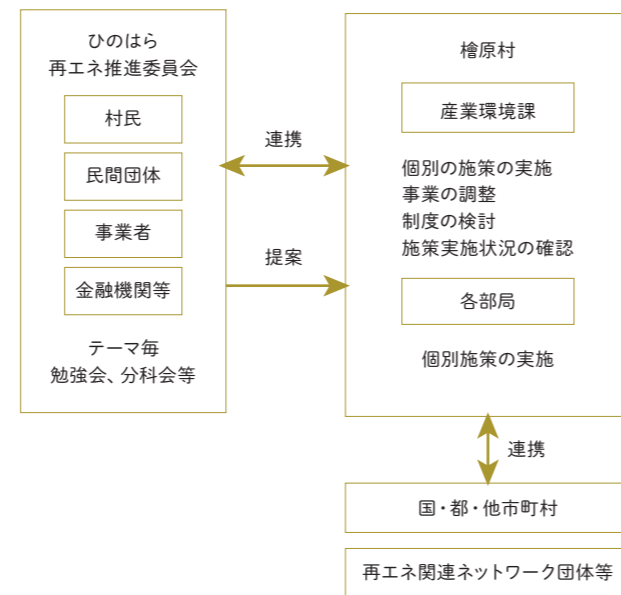


小水力発電
神戸川支流「水の戸沢」を活用(民間事業体)

本計画の推進について

本計画において、村が総合的かつ計画的に推進する役割を担うとともに、村民、事業者と一体となり、各主体それぞれが役割を担いながら推進していきます。

また、本計画は10年毎に評価・分析と見直しを行いながら推進していくこととします。



地域の将来ビジョン

再生可能エネルギーの導入計画を策定するにあたって、地域の将来ビジョンを以下のように設定し、このビジョンを達成できるような施策を検討しました。

檜原村のすばらしさを次世代に引き継ぐ人が育つ村へ

檜原村の自然や文化、そこから生まれた産業や技術、歴史について体験を通じて理解を深め、実践を重ねながら育っていく場や環境を子どもたちに提供しながら、次世代へそれらがよりよい形で引き継がれていくことに役立つような再エネ活用を図ります。

帰ってきたい、住み続けたい、住んでみたい村へ

快適性や利便性と自然豊かな場所でのくらしの良さとが両立できるようなライフスタイル、生き生きと働くことができる産業や安心して住み続けることのできるレジリエンスが備わった、住みたい村になるために役立つような再エネ活用を進めます。

～半歩前を歩む～地域の資源・恵みを活かすモデルとなる村へ

檜原村固有の資源や自然の恵みを保全しながら最大限に活用し、価値あるものを生み出すためのチャレンジを村民、事業者、行政それぞれが主体的にまた連携をして続けていけるような再エネ活用を進めます。

檜原村地域再生可能エネルギー導入計画(概要版)

お問合せ

令和4年(2022年)1月発行
檜原村

檜原村 産業環境課
〒190-0212 東京都西多摩郡檜原村 467 番地 1
tel: (042)598-1011(代) fax: (042)598-1009
<https://www.vill.hinohara.tokyo.jp/>

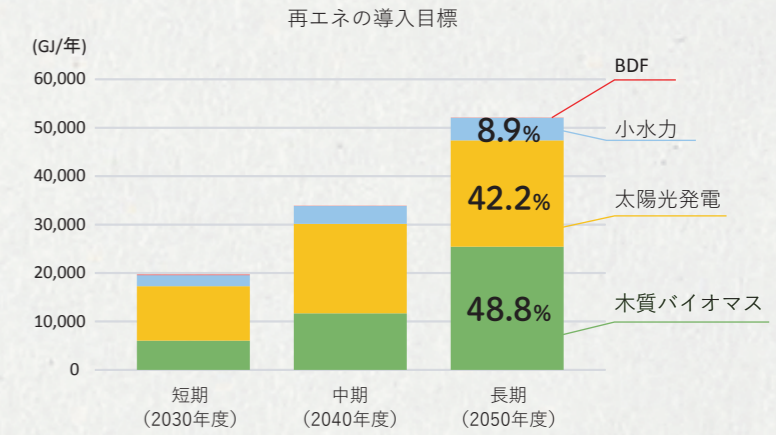
次世代につなぐ山村地域の脱炭素モデル

- ➡ 2050年度に温室効果ガス排出量実質ゼロ
- ➡ 2040年度に2013年度比73%削減
- ➡ 2030年度に2013年度比46%削減

現在の世代においてできる限りの対策を行いながら、今後の将来を担っていく世代の育成に係る取り組みも推進していきます。

熱として利用しているエネルギーには主に木質バイオマス(薪や木質チップなど)、電力には主に太陽光発電や小水力発電の利用を促進します。

長期的には、木質バイオマスの比率を高め、檜原村の特性を活かした再エネ活用を目指します。



地域の将来ビジョン及び再エネ導入目標を実現するための施策

- 短期的な取組み(～2030年度)
- 中長期的な取組み(～2050年度)

1 木質バイオマス横展開プロジェクト

温暖化対策のために取り組むべきこととして村がこれまで進めてきた公共施設での木質バイオマス利用について、同じような取り組みが村内全体へ広まっていくことを目指します。

- 水車の復活、マイクロ水力発電機
- 再エネ導入施設を活用したツアー開発、エコツアーへの組み込み、視察受け入れなど
- 電気自動車用充電設備の充実、電動の超小型車両や電動バイク貸し出し等

- 水道管でマイクロ水力発電
- 小水力発電、太陽光発電

2 災害に強い村プロジェクト

近年はこれまでよりも災害が大きく激しくなっています。山間部である村の暮らしを安全安心なものとするため、災害時でもエネルギーを確保できるような再エネ設備の導入を推進します。

- 薪ストーブ
- 薪ボイラー

- 薪や木質チップの燃焼後の灰を肥料に活用

- 災害対応型太陽光発電+蓄電池
- 設備導入時の費用負担無しで太陽光発電を利用できるサービスの活用など
- ZEH/ZEBについての情報提供

- ハイブリッドカーや電気自動車へ転換
- 小型車両へ転換し、電気自動車

3 産業活性化プロジェクト

村の観光業や農業、製造業等の産業の活性化に役立つ再エネの導入を進めます。また、村の地形を最大限に、かつ、むだなく活かした再エネの導入により、山間地で脱炭素に取り組むモデルを構築します。

観光資源に

- ゼロエネルギーハウス(新築時)
- 省エネ・断熱、再エネ設備導入(リフォーム時)
- 薪ストーブ・薪ボイラー・薪配達サービス等

- 災害対応型太陽光発電+蓄電池

- 再エネで浮いたお金を環境教育の活動等へ活用(資金循環)
- 学びと遊びの拠点づくり
- 子どもたち主体による見学プログラムやイベントの企画・運営エネ導入(太陽光発電、木質バイオマス、省エネ・断熱改修等)

- 再エネ見学会・体験会
- 再エネ導入(太陽光発電、木質バイオマス、省エネ・断熱改修等)
- 使用済み食用油を回収・精製し、発電機の燃料に利用

- 木質バイオマスからつくる熱と電気を活かして、新しい産業を生み出す
- 再エネを取りあつかう会社の育成
- 村内の再エネを買い取るようなしくみづくり

- 特産品等の製造に再エネを活用(太陽光発電、小水力発電、薪ボイラー、チップボイラー)
- 薪ボイラー、チップボイラー

- 薪づくりの担い手育成
- 使用済み食用油を回収・精製し、薪製造施設の重機等へ軽油代替燃料として利用

新規産業の創出

4 教育×再エネ連携プロジェクト

子どもたちが計画の段階から主体的に加わることができ、脱炭素や再エネについても学ぶことができる場づくりを、村内外の様々な協力を得ながら推進します。

5 住みたくなる村プロジェクト

村での生活の便利さや快適さの向上と、再エネ設備の導入を、同時に実現できるような取組みを進めます。

※ZEH(ゼッチ:ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス)、ZEB(ゼブ:ネット・ゼロ・エネルギー・ビル)とは...
省エネによって使うエネルギーを減らし、再エネによって使う分のエネルギーをつくることで、エネルギー消費量を±ゼロにできる建物のこと。